

## 2022. 1 月のブルーベリー農園その 4

大寒が 1 月 20 日、立春が 3 月 4 日。今週はその狭間。安芸区の家から東広島市豊栄町のブルーベリー農園に行きブルーベリーの剪定を続けている。日中の日差しが強く

なり、青空と白い雲がきれいで、夕方のブルーベリーの枝が斜光線で白く光るし、モグラの掘るモグラ塚があちこちに増えて、キジバトも鳴いている。ブルーベリーの枝を燃やしたついでに熾火でサツマイモを焼く。3 回目です。うまく焼けるようになった。しかし、サツマイモの値段は高くなった。



1 月 29 日 (土)

午後農園に着いて最初の作業は剪定で切った枝を燃やすこと。毎回 1 時間ほど燃やすことにしている。

1 月 30 日 (日)

農園の庭のナンテンの真っ赤な実。後ろの白いもこもこした花芽がシデコブシ。



里山の早生のブルーベリー。葉が落ちてひたすら春を待つ。

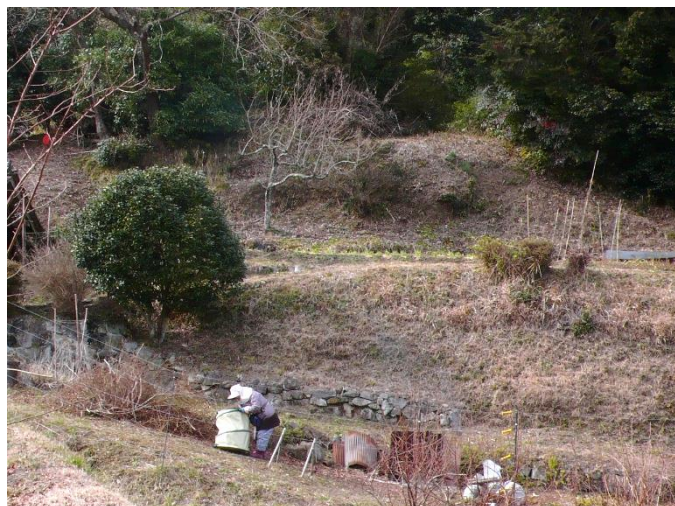


モグラ塚。この場所は、先週は 2 か所の塚だったがこの日は新たに 3 か所増えていた。地中に住むモグラの動きが伝わる。





畑のブルーベリーの剪定を続ける。昨年夏に実の重さで枝が裂かれてしまったところに癒合材を塗った。そして、3mくらいになった枝や、隣の木に接触している枝は太くても切っていく。



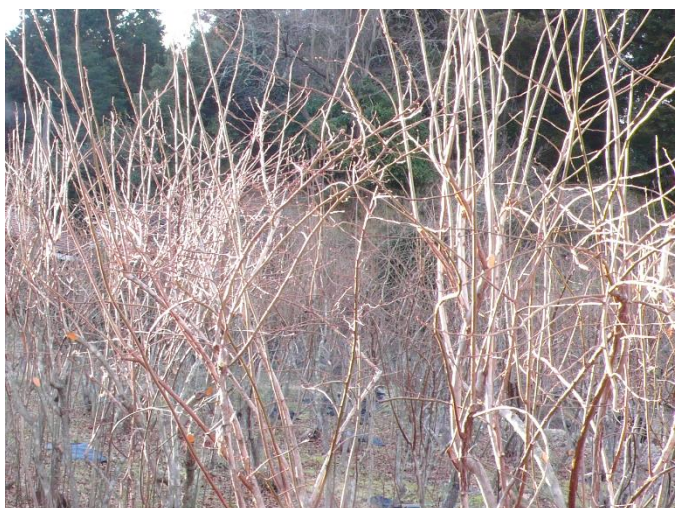
ブルーベリーの枝を置く場所と、枝を燃やす場所。



剪定済みのブルーベリーと青空と雲。1月初めと比べると暖かくなった。



ブルーベリーを燃やしたあとの熾火で焼き芋を焼いている。この日は3度目でおおよそ2時間燃やした枝の熾火の中に潜らせておくと出来上がり。



4時過ぎると斜光線にブルーベリーの枝が照らされて白く光る。



すっかり柔らかくなった。家に持ち帰って夕食の後でもぐもぐした。品種は鳴門金時だった。

2022年1月31日  
社会福祉法人安芸の郷  
理事長 遊川和良

